



管路DBの導入目的

- 老朽管路の増大、管路の耐震化の遅れにより、管路更新の事業量の増大が想定されます。
- 管路更新整備の設計・施工一括発注方式（管路DB）の採用により、効率的に管路更新事業を推進する手法をご提案します。
DB=Design Build

管路整備における課題

 <p>ヒト</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 技術職員の減少 ▶ ベテラン職員の減少 	 <p>モノ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 経年化管理路の増大 ▶ 管路の耐震化の遅れ ▶ 事業進捗の遅れ 	 <p>カネ</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 料金収入の減少 (水需要の減少) ▶ 建設投資額の増大
---	--	---

課題解決策

管路整備事業の設計・施工一括発注方式(管路DB)の導入が、課題解決策の一つ

管路DBの導入効果

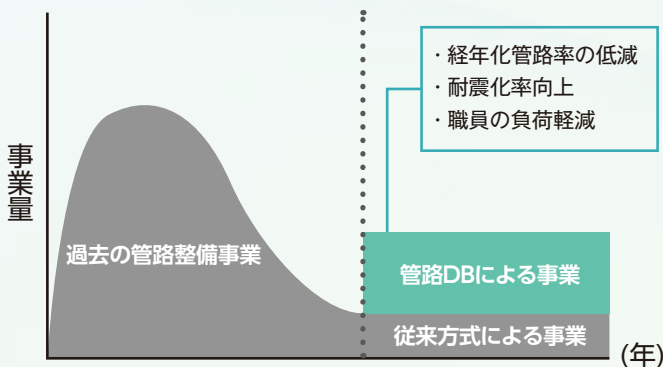
<p>事業の スピードアップ</p> 	<p>職員の負担軽減</p> 	<p>品質確保</p> 	<p>経費縮減</p> 
---	---	---	--

管路DB方式の主な特徴と採用効果の例

比較項目	従来方式の主な特徴	管路DB方式の主な特徴	管路DB方式の採用のねらい
契約方式	設計施工分離	設計施工一括	<ul style="list-style-type: none"> ● 発注手続きの一括化による全体工期の短縮、職員負担軽減 ● 同一業者による均一な品質確保 ● 工区一括発注による経費縮減
工期設定	単年度	複数年度	
選定方法	一般競争 総合評価方式	プロポーザル方式 総合評価方式	
発注区分	工区分割発注	工区一括発注	

管路DBの概念

管路DBによる更新事業を増加



従来方式による事業フロー

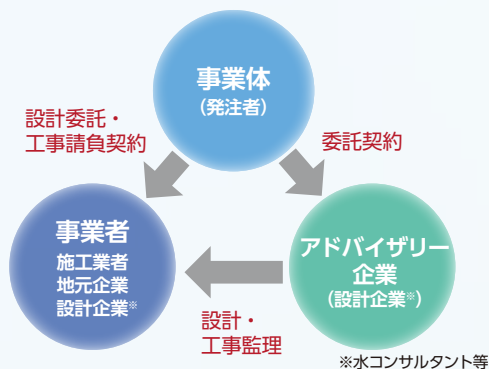


管路DB方式による事業フロー

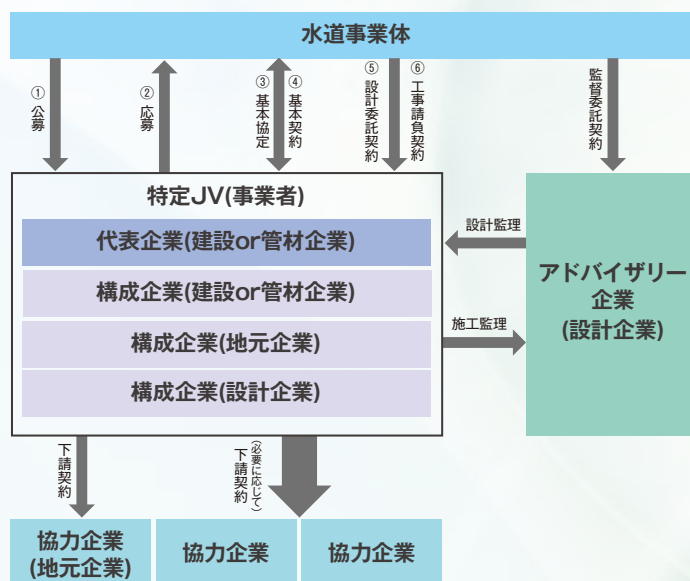


スキーム事例

- 設計・施工一括を特徴とする管路DB方式は、設計技術を持つ設計企業と、施工技術を持つ建設企業で構成される特定建設工事共同企業体を実施体制のベースとなることが多いです。
- 小規模な事業の場合は、建設企業のみで構成するケースもあります。
- 地元企業に配慮するスキームにすることで、地元への事業量を確保することができます。



管路DBスキーム事例



導入事例

事業体	事業方式	事業内容	事業期間	事業規模
神奈川県企業庁	工事のみ	箱根地区の包括委託のうちの管路工事	5か年	総延長5.49km GXφ100～φ300
荒尾市	DB	包括委託のうちの管路工事	5か年	不明
群馬東部広域水道企業団	DB	包括委託のうちの管路工事	8か年	総延長20.5km GXφ100～φ300
燕市・弥彦村総合事務組合	DB	統合に伴う送配水管整備事業	5.5か年	総延長22km DCIPφ250～φ700
小諸市	DB	管路更新事業	約2年8か月	総延長2.4km GX
秩父広域市町村圏域組合	DB	管路更新事業	約5か月	総延長0.655km HPPEφ200

現在、検討中の事業体多数あり

官民連携の推進【管路DB導入支援、可能性調査等】

- NJSは、PPP/PFI関連業務として、予備調査から可能性調査、発注支援業務や履行支援業務など多くの受注実績を有しています。
- 管路DB事業についても実績を有しており、多くの経験に裏打ちされた地域の実情に即した実現性の高い手法を提案いたします。

官民連携支援のスケジュール

